

水害時の心得

被害の軽減

扉の下の際間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



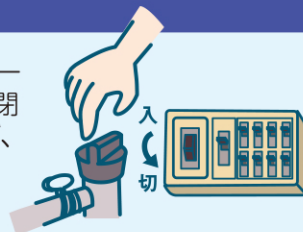
避難の呼びかけに注意を

危険が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをします。
呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



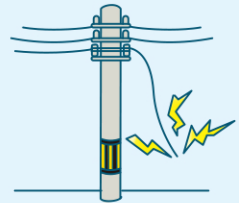
避難は徒歩で

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。
浸水すると車が動かなくなるので避難は徒歩にしましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているの、さわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



水面下は危険です。二人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



歩ける深さ男性約 70cm、女性約 50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまでです。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



雨の強さと降り方(1時間雨量:mm)

10～20の雨



地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

20～30の雨



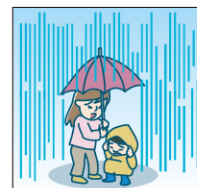
土砂降りの雨のときは、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えをしましょう。

30～50の雨



バケツをひっくり返したような激しい雨のときは、山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。避難の準備をしましょう。

50～80の雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80以上の雨



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

10以上～15未満



風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

15以上～20未満



風に向かって歩けない。転倒する人もいる。

20以上～25未満



しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

25以上～



立っていられない。屋外での行動は危険です。樹木が根こそぎ倒れはじめる。